

國際法外交雜誌

第112巻 第1号

2013年5月

論 説

国際法の規範形成における国際法委員会の役割
 ——課題選択を中心に—— 上智大学教授・国連国際法委員会委員 村 瀬 信 也 1

ソマリア「海賊」問題と国連
 ——「安保理の機能変化」論との関わりで—— 南山大学教授 山 田 哲 也 30

研究ノート

An Analysis of Legitimacy Discourses in International Criminal Justice
 through Comparative Research on the ICC and the ECCC
 Associate Professor, Aichi Prefectural University Hitomi TAKEMURA 56

「世界最高裁」の夢
 ——20世紀転換期アメリカの「法律家的」平和主義の思想史的検討——
 日本学術振興会特別研究員(PD) 三 牧 聖 子 80

資 料

判例研究・国際司法裁判所
 ジェノサイド条約適用事件1996年7月11日先決的抗弁判決の
 再審請求事件(判決・2003年2月3日) 国際司法裁判所判例研究会 107

判例研究・国際司法裁判所
 武力行使の合法性事件(セルビア・モンテネグロ対オランダ)
 他7件(先決的抗弁判決・2004年12月15日) 国際司法裁判所判例研究会 123

紹 介

望月康恵 著「移行期正義——国際社会における正義の追及」
 東京外国語大学教授 篠 田 英 朗 149

藤田久一 著「核に立ち向かう国際法——原点からの検証」
 青山学院大学准教授 阿 部 達 也 154

清水奈名子 著「冷戦後の国連安全保障体制と文民の保護」
 ——多主体間主義による規範的秩序の模索—— 慶應義塾大学専任講師 尹 仁 河 160

Keiichiro Okimoto, *The Distinction and Relationship between*
Jus ad Bellum and Jus in Bello 同志社大学教授 新 井 京 165

会 報

一般財団法人国際法学会 第2回理事会 170
 パネル公募のお知らせ 174

国際法外交雑誌

第112巻 第2号

2013年8月

特集「国連海洋法条約採択30周年」

論 説

- 国連海洋法条約の成果と課題
——条約採択30周年の地点に立って—— 龍谷大学教授 田 中 則 夫 1
- 大陸棚限界委員会の活動と機能
——国際機関による海洋法の発展—— 西南学院大学教授 古 賀 衛 26
- 公海漁業の規制
——IUU 漁業をてがかりとして—— 熊本大学教授 深 町 公 信 53
- 国連海洋法条約と日本
——署名開放30周年に寄せて、二つの新制度の発展を中心に——
外務省外務報道官 佐 藤 地 81

紹 介

- 江藤淳一 著『国際法における欠缺補充の法理』京都産業大学教授 岩 本 誠 吾 108
- Roland Portmann, *Legal Personality in International Law*
静岡県立大学助教 北 野 嘉 章 113
- 山内惟介 著『21世紀国際私法の課題』 京都大学教授 中 西 康 119
- 大矢根聡 著『国際レジームと日米の外交構想
——WTO・APEC・FTAの転換局面』 大阪大学准教授 内 記 香 子 124

主要文献目録

- 国際法 鈴木めぐみ・永田高英 129
- 国際私法 申 美穂・種村佑介 180
- 国際政治・外交史 小川裕子・山越裕太 202

会 報

- 『国際法外交雑誌』の投稿規程および執筆要領等の改正 227
- 小田滋賞規程等の制定 237

國際法外交雜誌

第112卷 第3号

2013年11月

論 說

International Courts and Tribunals and the Development of the Rules
and Methods Concerning Maritime Delimitation
Professor, Waseda University Mariko KAWANO 1

國際規範の法化・遵守連鎖の逆説
——WTOにおける法化の不均衡とその波及効果—— 同志社大学教授 大矢根 聡 28

研究ノート

武器貿易条約の成立と日本の役割
内閣法制局参事官 石垣友明 52
外務省通常兵器室上席専門官 木村泰次郎
軍縮会議日本政府代表部一等書記官 田辺 信

書 評 論 文

平和構築における警察改革(支援)——紛争後・移行期社会の警察に関する研究の動向——
関西外国語大学専任講師 古澤嘉朗 76

資 料

解説・日本の国際法判例(7)——2009(平成21)年——
「日本の国際法判例」研究会(第2期) 87

紹 介

玉田 大著『国際裁判の判決効論』 桐蔭横浜大学教授 内ヶ崎善英 138
許 淑娟著『領域権原論——領域支配の実効性と正当性』
京都大学教授 酒井啓亘 142

Tetsuya Toyoda, *Theory and Politics of the Law of Nations:
Political Bias in International Law Discourse of
Seven German Court Councilors in the Seventeenth
and Eighteenth Centuries* 慶應義塾大学教授 明石欽司 148

等松春夫著『日本帝国と委任統治——南洋群島をめぐる国際政治1914-1947』
早稲田大学教授 篠原初枝 153

会 報

一般財団法人国際法学会 第4回理事会 158
主要文献目録について 163
第45回、第46回安達峰一郎記念賞 163

國際法外交雜誌

第112卷 第4号

2014年1月

論 説

國際法實現過程におけるソフト・ローの機能 埼玉大学教授 山本 良 1

研究ノート

人権保障のための積極的義務としての手続的義務
——人権侵害に対する実効的な調査義務をめぐる法理の展開——
青山学院大学教授 申 恵 丰 26

難民認定審査の多段階的構造と各段階における判断の性質
——「灰色の利益」論の位置づけと機能—— 東京大学特任准教授 山本 哲 史 53

資 料

国連國際法委員会第65会期の審議概要 國際法委員会研究会 78

解説・日本の國際法判例(8)——2010(平成22)年——
「日本の國際法判例」研究会(第2期) 105

紹 介

小田 滋 著『回想の海洋法』 國際海洋法裁判所所長 柳 井 俊 二 159

高桑 昭 著『國際民事訴訟法・國際私法論集』 西南学院大学教授 多 田 望 164

篠田英朗 著『「国家主権」という思想——國際立憲主義への軌跡』
東京大学教授 石 田 淳 169

会 報

國際法学会2013年度(第116年次)研究大会 174

個別報告公募のお知らせ 207

パネル公募のお知らせ 208

弔 辞 209

総 目 次 216